

課 題	普通栽培カボチャ日焼け果防止資材の調査		
担 当 者	小林 照世		
目 的	普通栽培カボチャでは、うどんこ病の被害による果実周りの葉の枯れや、収穫時期の強熱射が原因で日焼け果が増え、出荷量が減少する。そこで、数種類のテープ資材を用い、日焼け果が防止できないか検討する。		
供 試 品 種	栗将軍（トキタ種苗）		
試験区構成	1区 白クラフトテープ（幅 50 mm） 2区 茶クラフトテープ（幅 50 mm） 3区 半透明養生テープ（幅 100 mm） 4区 緑養生テープ（幅 100 mm） 5区 無処理		
区制及び株数	2区制 1区 10株 20個		
耕 種 概 要	栽培条件	露地	
	播 種	4月8日	
	定 植	5月8日	
	栽植密度	畝幅 150cm×株間 70cm	150株/a
	仕立て方	子づる 2本仕立て	
	施 肥 量	元 肥	堆肥 200kg/a
			有機石灰 15kg/a
			くみあい LP 有機入り粒状固形配合 S859 14kg/a
		成分量	N1.1-P0.7-K1.3 kg/a
	貼付時期	8月6日	
	収 穫	8月17日、18日	

結果及び考察

- 1 日焼け防止率を表1に示した。90% (18個) の1区が一番高く、次に75% (15個) の2区、35% (7個) の3区、30% (6個) の4区、15% (3個) の5区の順に低くなった。
- 2 日焼けの程度を5段階に区分し、表2と図1に示した。1区は日焼けの程度が1のみで、数も2個と少なかった。2区は2までで、1と合わせて日焼け果は5個であった。3、4、5区は日焼け程度5までの日焼けがあり、特に3区は6個、5区は7個と数も多かった。また、5区は日焼け程度0が一番少なく、1~5全ての区分の日焼けがあった。

以上の結果より、1区白クラフトテープが日焼け果が一番少なく、また、日焼けしたとしてもその程度が小さいことから、日焼け防止資材として一番有効であることが分かった。

一方、3区半透明養生テープや4区緑養生テープは、透過率が高いためか、日焼けを防止することができなかった。また、日焼けの程度も大きく、日焼け防止には向かない素材であることが分かった。

今後、カボチャの出荷量増加と農家収入の向上を図るために、白クラフトテープ使用を積極的に推進していく。

表1 日焼け防止率

	日焼け防止率(%)
1区	90(18個)
2区	75(15個)
3区	35(7個)
4区	30(6個)
5区	15(3個)

表2 日焼けの程度

	日焼けの程度 (個)					
	0	1	2	3	4	5
1区	18	2	0	0	0	0
2区	15	3	2	0	0	0
3区	7	4	1	0	2	6
4区	6	6	2	3	0	3
5区	3	2	3	3	2	7



図1 日焼けの程度区分

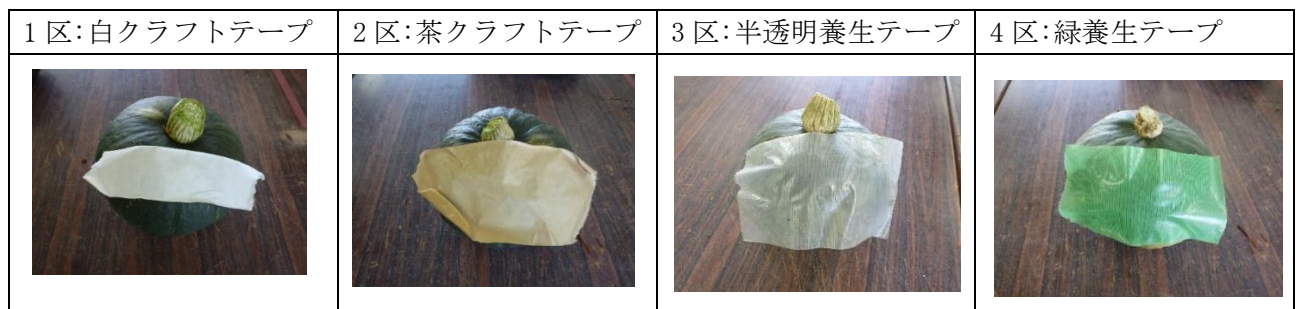


図2 各区のテープ貼付状態